

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3770101990
法人名	株式会社ケアサービスかがわ
事業所名	グループホーム春日
所在地	香川県高松市春日町671番地1 (電話)087-841-8825

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価決定日	平成21年8月31日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 19日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	16人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～55,000円	その他の経費(月額)	13,000円+実費	
敷金	有()円		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350円	昼食	500円
	夕食	550円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(6月24日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	12名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	60歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまもと医院	高松大塚歯科医院
---------	--------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は河川の土手道路から入り込み、水田に囲まれていてすぐ前はマンションが建っている。開設から6年を経て、入居者の半数は当初からの利用者であり介護度も進んできている。管理者、職員は「家族愛」を基に利用者の第二の家族として日々の介護を行っている。介護の中では転倒の弊害を考慮して眠剤を使わないことや、リハビリパンツを使わない自然排泄を方針として実践している。職員は笑顔を大切にして接している。また、心がけとして「幸福になれる五つの心」を毎日唱和し、利用者の生活リズムに合わせ、ゆったりとしたペースで時間が過ごせるような配慮をしている。年1回の夏祭りには27名の利用者に家族が加わり100名程集まるなど家族の参加協力がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を受けてから各ユニットで1カ月ごとに「今月の目標」を設定して発表している。同時に達成状況も報告し、評価している。その過程を通して職員の気づきや向上心が生まれていて、他ユニットにも広がるという効果がでている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニット単位でスタッフと共に自己評価を行い、課題について検討し日々のサービスを見直している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2カ月に1回開催され、利用者の状況報告や外部評価後の話し合いをしている。昨年の外部評価後の意見交換から地域に行事案内のチラシ配布をしているが、地域からの入居者も少なく、参加がない現状にある。事業所としてはボランティアの受け入れもしているが、すそ野が広がっていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に直接、家族から意見や苦情を聞ける信頼関係ができてきている。家族の面会は平均週1回程度で、毎日来られる方もいる。家族からの出された意見、苦情は、すぐにスタッフと検討し、改善している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の散歩時には挨拶をしたり、農家の協力で野菜の収穫をしている。近隣の工場の方には徘徊している人の見守りをしてもらい、連絡をもらっている。地域に行事案内のチラシ配布などで参加を呼びかけている。ボランティア団体によるセラピューティックケアでは1対1の話相手になってもらったりしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社訓として「家族愛」を掲げている。社訓を事業所の理念と考え、自分の親や祖父母として家庭的生活を支援し、実践につなげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、幸福になれる5つの心として「素直な心」「反省の心」「謙虚な心」「奉仕の心」「感謝の心」を唱和している。いつも笑顔で接する態度と5つの心がけを日々の実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティア団体によるセラピューティックケアや近隣の農家の協力で野菜の収穫をしたり、地域に行事案内のチラシを配布するなど交流に努めている。しかし、近くの神社まで散歩に出かけられる利用者も少なくなり、行事案内しても参加がなく、事業所としての積極的な地元交流の働きかけに広がりが見られない。	○	周辺は工場やマンションが立ち、民家も少なく立地条件として近隣の方々が立ち寄りにくい環境にあるが、近隣の農家の方に立ち寄ってお茶を飲んでもらったり、地域の小学校や幼稚園・大学等との行事の相互交流を足がかりに、認知症の理解を得る機会を持つことが望まれる。地域資源活用の機会が増えることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価を通して他のユニットの介護の取り組み状況がよく分かり、他ユニットのよいところを日々の取り組みに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1回開催されている。利用者の状況報告や外部評価後の話し合いも持たれている。開設時からの家族代表の方が入居者の死亡に伴い退任され、家族に参加依頼をしてもなかなか参加してもらえなくなっている。	○	定期的な会議の開催はなされてはいるが、状況報告に留まっている。家族会はなく、家族の意見が反映されていないこともあり、家族参加を積極的に働きかけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>困難事例等について相談し、具体的な助言を得てサービスに活かしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>1カ月に1回、手紙に健康状態や暮らしぶり、行事予定、病院受診後の検査結果等を同封している。面会時にも個々に合わせた報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や電話対応で常に意見や不満・苦情が聞けるよう努力している。得られた意見は職員と話し合い、運営に反映している。外部機関は重要事項説明書で説明している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>年1回はユニット間で異動が行われている。毎朝、各ユニットの夜勤者、日勤責任者、管理者が、業務日誌に記載されている入居者の状況や対応の仕方などを申し送り、その場での話し合いが持たれている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人は介護の基本事項のマニュアルを作成し、OJTで2週間程度は個別に指導が行われている。施設内は研修担当者が職員の希望を聞きながら2カ月に1回研修をしている。施設外研修も周知を行っており、働きながらの資格取得も支援している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人関連施設との交流や勉強会などはあるが、同業者との交流は図っていない。</p>	○	<p>認知症の介護に情熱的な職員もいることから、同業者との相互訪問や勉強会での交流を図り、お互いのサービスの質の向上に取り組める機会を持つことに期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に事業所内の見学をしてもらい、入居している。プライバシーに配慮しながら利用者の生活歴などを把握し、習慣や対応の方法を聞いて本人や家族の不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族として父母であったり、祖父母として、日々のかかわりの中で喜怒哀楽も共にし、いたわりや励ましをもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や言葉から察したり、家族からの情報で意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護(処遇)記録は時間毎に具体的に記載されており、利用者の現状や様子が把握できる。毎日の申し送りや1カ月1回の処遇会議、3カ月に1回のカンファレンスでは本人、家族、職員から出された意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回のカンファレンスやモニタリングで見直しはできている。急な変化時にも家族・関係者や医療機関などと話し合うなど柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて、通院・透析の送迎支援を臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医の受診状況を聞き、本人、家族の希望に沿っている。かかりつけ医や協力病院からの往診もお願いしている。家族の都合で職員が受診に同伴した場合は電話で結果を伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の基本方針は終末期には入院としているが、家族の希望で2名を施設で看取っている。家族の意向に沿って早い段階から本人、家族、関係機関と話し合い、方針が決まると全職員で対応について共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応は丁寧に行っている。記録類は別室に保管されているが、一部の記録類がソファの上に置かれている。利用者の会話を大切にしながら、居間で記録しているが、他の利用者もいる中で便や尿を尋ねることもある。	○	記録類の扱い方や他の利用者の前でプライバシーに関わるような言葉かけへの配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人の希望や様子を確認しながらその日、その時を過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回はバイキング形式にし、利用者が好きな物、好む量を食べてもらい、好評を得ている。体重も毎週測定しているが、大差なく経過している。毎日食前にはおしぼりたたみや食事の盛り付けをし、食後は後片付けなども職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴の声かけをしている。利用者の希望で他の入居者と一緒に入浴している方もいる。嫌がる方は時間を置いて入浴を促している。入浴しなかった方には就寝前の足浴を行っている。器械入浴の方は1日置きとなるが、入浴日以外は足浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、ユニット毎で音読や計算ドリルを日課として楽しみにしている。ユニット毎に午後のレクリエーションと施設全体で週1回のレクリエーション、季節毎の催し物で気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの川沿いの散歩やドライブ、日帰り旅行などで戸外に出かけている。介護度が進み、散歩などできない利用者が半数になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室には鍵をかけていない。玄関は自動ドアで中からは操作しないと出られない仕組みになっている。ユニットの出入口が直ぐにエレベーターと階段で危険ということもあり、帰宅願望が強い人で目離しができない状態の場合は一時的に出入口を施錠することもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所は地域から避難場所の協力依頼を受けているが、事業所として地域への災害時の協力依頼はしていない。訓練に参加できる利用者が少なく、消防署との連携による避難訓練は行われていない。食品や水などの備えはしていない。	○	昼夜を問わず避難できる方法が身につけられるように避難訓練の実施を検討されたい。地域の避難場所としては、入居者の生活を確保しながら、具体的にどのような協力が必要か、また、事業所の災害時の協力依頼の内容(例えば入居者の見守り)など運営推進会議での話し合いを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ユニット毎でペットボトルやコップでの水分補給を行っている。体重測定を毎週行い過不足がないかを確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自然の光を取り入れ清掃もできている。季節の花がテーブルに飾られている。利用者はソファやダイニングテーブルでテレビを見たり、話をしたりして居心地よく過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓からは周囲の景観が見渡せる造りで外からの自然の光や風も入り、居室から布団干しもできる。それぞれの部屋は本人の好みの物や使い慣れた家具などを置いている。		